

鹿屋寺子屋事業について



1. 目的

生涯学習の拠点施設である公民館等を活用し、放課後、学びたくてもその環境が整っていない子どもたちを対象に、学習活動の支援や地域のことを知る活動、地域の方々との交流活動等を実施し、学力向上と郷土愛を育むことを目的とする。

2. 事業の概要

(1) 寺子屋の活動は、学習活動（自学自習）を主とするが、月に1回程度は体験活動等も組み入れる。

(2) 寺子屋運営のために指導員（教職経験のある者を含む）2人を配置する。ただし高須地区学習センターについては1人とする。）



串良鶴亀塾

3. 開設場所

| 配置年度 | 番号 | 担当館 |
|------|----|------------------|
| 28 | 1 | 大始良地区学習センター |
| | 2 | 花岡地区公民館 |
| 29 | 3 | 高隈地区交流促進センター |
| | 4 | 東地区学習センター1 |
| | 5 | 串良公民館 |
| | 6 | 吾平振興会館 |
| 30 | 7 | 東地区学習センター（札元1丁目） |
| | 8 | 西原地区学習センター |
| | 9 | 中央公民館（リナシティ） |
| | 10 | 田崎地区学習センター |
| | 11 | 高須地区学習センター |

4. 開設日及び開設時間

(1) 学習活動は、週1回の開設とし、午後3時から午後6時の3時間とする。

(2) 体験活動等は、原則、月1回最終土曜日の午前9時から正午の3時間とする。

ただし開設地区の状況によって、開設時間等を変更する場合もある。



田植え

花岡未来塾

5. 指導員の配置

- (1) 各寺子屋の指導員は、原則2人体制とする。(学習指導経験のある退職校長会、地域人材、鹿屋体育大学生)
- (2) 指導員は、学習指導や年間活動計画の立案 体験活動等の講師・ボランティアの依頼を行う。



6. 寺子屋参加の対象及び定員

(1) 対象は、小学生とする。(定員は、各館概ね20人程度とする。)

(2) 寺子屋への行き帰り(徒歩・送迎)については保護者の責任のもと行う。



美里吾平塾

平成30年度開設館の寺子屋の名称及び開設曜日（学習活動）

| 担当館名 | 寺子屋の名称 | ネーミングにこめた願い | 開設曜日 |
|------|---------------|---|-------|
| 高 隈 | Waku×2 たかくま塾 | 子どもの好奇心を育て、Waku×2 しながら勉強に励む | 毎週金曜日 |
| 花 岡 | はなおか未来塾 | 地域の未来を担う子どもたちのための塾 | 毎週金曜日 |
| 大始良 | 大始良夢現塾 | 子どもたちの夢の実現を加勢する塾 | 毎週月曜日 |
| 東 1 | 東サンサン塾 | 日出館（方角を指す）。子どもたちが太陽のように燦々と明るく 光り輝くように | 毎週金曜日 |
| 串 良 | 串良鶴亀塾 | 地名「鶴亀」のごとく、ゆっくり伸びやかに成長してほしいとの 願いから | 毎週金曜日 |
| 吾 平 | 美里吾平塾 | ふるさとを想う子どもに育ててほしい | 毎週月曜日 |
| 田 崎 | りりし田崎塾 | 校歌の最終節「おおしく、りりし田崎校」にちなみ、凛として 清々しい様子の子どもの成長願って命名 | 毎週金曜日 |
| 西 原 | 西原まなび塾 | 「学び舎」からイメージして「ひらがな」で「まなび」とするこ とで学習するところであることを分かりやすくイメージして命名。 | 毎週金曜日 |
| 高 須 | 浜っ子塾 | 海のように、心広く、何事にもチャレンジする子どもになってほ しいと願って命名。 | 毎週木曜日 |
| 東 2 | 寿北（こときた）ランラン塾 | 昔、校区に競走馬の飼育場があったことから、子どもたちが駿馬 のごとく駆け回り、楽しく学んで成長していくことを願って命名。 | 毎週金曜日 |
| 中 央 | 鹿屋てのん塾 | みんな手を取り合って、協力しながら楽しく学習して欲しいとい う願いをこめて、鹿児島弁の「てのん」～命名。 | 毎週水曜日 |

7 アンケートの結果

子どもの感想

- ・ お兄さんやお姉さんの勉強する姿を見て、自分もどうすれば良いか分かった。
- ・ 地域の昔の様子を、おじいさんやおばあさんに聞いて、知らないことや場所が分かってとてもびっくりした。

保護者の感想

- ・ 進んで勉強し、集中して取り組むようになった。
- ・ 分からない問題をそのままにしていたのが、以前より聞いてくるようになった。
- ・ 子どもから色々と話を聞いて、親も学ぶ機会となった。



学び合いの様子



保護者も参加

8 成果

- 1 学習習慣が身についてきている。
- 2 地域を知る活動をとおして、郷土愛の育成につながっている。
- 3 高齢者等との交流をとおして、子どもたちは地域住民を知り、活動の楽しさを味わうとともに、高齢者にとっても生きがいづくりにつながっている。



史跡めぐり



スポーツ吹矢

017 09 30

9 課題

- 1 寺子屋に通いたくても、遠すぎて通えない子どもたちがいることから、それぞれの学校から身近に通える場所での開設が必要であること。
- 2 寺子屋を増やしていくに従って、指導者等の人材確保や財政負担について、持続可能な仕組みづくりの工夫が必要であること。



新鹿屋寺子屋構想

新鹿屋寺子屋構想

基本理念

「地域の子どもは地域で育てる」という視点に立って、それぞれの地域の実態に応じて、地域の方々が、子どもたちに対して、学習支援・体験活動を実施していく。



- 青少年の健全育成（教育環境の整備）
- 地域づくりへの貢献

新鹿屋寺子屋構想

目的

学びあう楽しさ

郷土愛の育成

高い教育力をもつ地域づくり

安心して子育てできるまちづくり

町内会と連携して実施

退職校長会

指導
助言

地域（町内会等）

支援

地域PTA

寺子屋活動

支援

子ども会
育成会

青壮年部

支援

地域の子ども

支援

高齢者
クラブ

スポーツ推進
員・民生委員

支援

開設場所

学習・体験活動
学び合い

支援

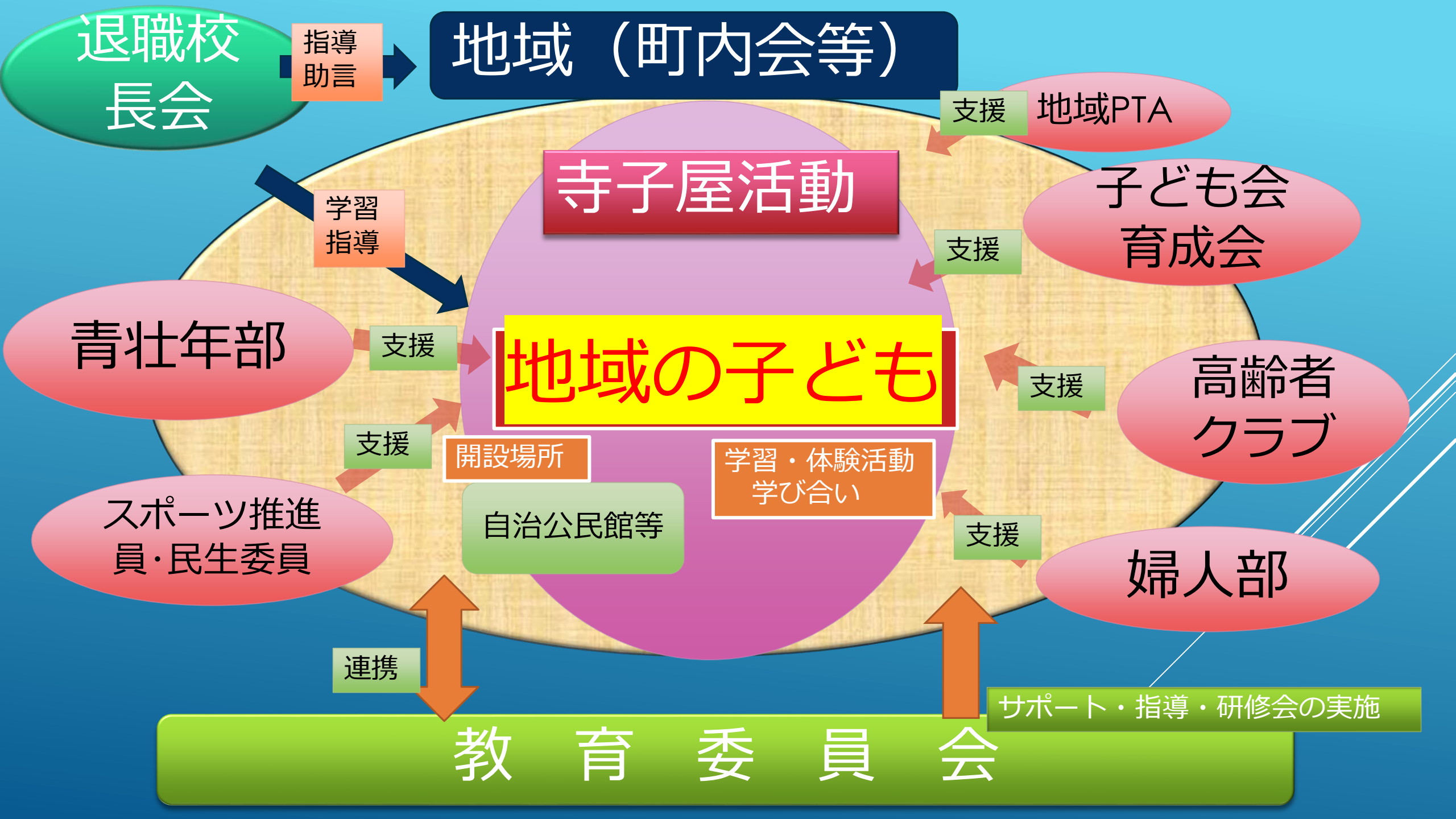
自治公民館等

婦人部

連携

サポート・指導・研修会の実施

教育委員会



地域の方々による指導・見守り

月1回の体験活動

<例> 寿7丁目町内会の活動（土曜学級）

- 5月 1年生を迎える会
- 6月 田植え
- 7月 鹿屋体育大学生との交流
- 1 1月 脱穀
- 1 2月 クリスマス会
- 1月 たこ作り・たこ揚げ
- 2月 グラウンドゴルフ大会
- 3月 6年生を送る会

6月 田植え



10月 脱穀



12月 クリスマス会



1月 たこ作り・たこ揚げ



今後の目標

| | H30 | (H31 H32) | H33 | H36 | |
|------|------|--------------------|-------------------|--|--|
| 開設数 | 11か所 | 16か所 | 24か所 | 40か所 | 70か所 |
| | | 全地区公 民館等で 開設 | 全小学校 校区で開 設 | 大規模 20 / 42 中規模 9 / 20 小規模 11 / 88 * 大・中規模を中心に 2か所目以降を開設 | 大規模 35 / 42 中規模 12 / 20 小規模 23 / 88 * 未開設町内会を中心に 実情に合わせて開設 |
| 指導者数 | 22人 | | | 500人 | 1000人 |
| 参加人数 | 203人 | | | 800人 | 1400人 |

| | | |
|-----|----------------------|-------|
| 町内会 | 大規模 (子どもの数100人以上) | 42町内会 |
| | 中規模 (" 50人以上100人以下) | 20町内会 |
| | 小規模 (" 50人以下) | 88町内会 |